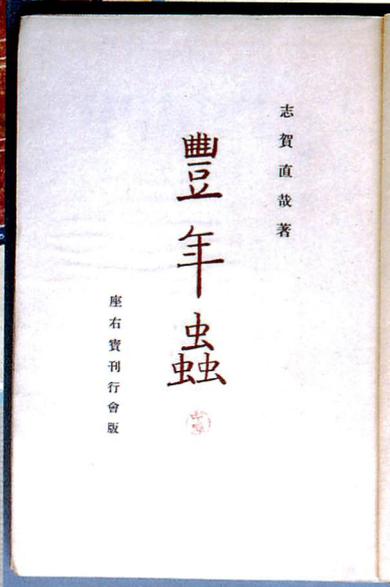


上田の風土と近代文学



目次

口 絵

刊行のことば

上田市誌刊行会長

上田市長 平尾 哲 男

監修のことば

東京大学名誉教授・前国立歴史民俗博物館長 石 井 進

まえがき

凡 例

第一章 明治時代の文学

第一節 秋和の里と詩人たち

一 滝沢秋暁

滝沢秋暁の生家 秋暁と雑誌『文庫』 雑誌『田舎小景』の創刊 帰郷後の秋暁

上田城跡公園への提言 「司令塔」に描かれた秋和

二 秋和の里と詩人たち

伊良子清白「秋和の里」 小島烏水の滝沢家訪問 烏水再びの上田

第二節 文芸活動のひろがり

目 次

一 文芸誌への投稿

11

11

8

3

3

	飯島花月と投稿雑誌	
二	文芸同人結社と文芸誌の発行	13
	雑誌『あだなぐさ』の創刊	楽書会の発足
	『さざれいし』の果たした役割	みずず連の結成
	『はなくらべ』の創刊	松宇、子規互評「富士百詠」
三	文芸総合雑誌の発行	
	『信州文壇』の創刊	
四	その他の雑誌などに掲載された文芸作品	
	『上田郷友会月報』にみる文芸	
第二節	芸術家たちと大屋	25
一	大屋の山本鼎	25
	山本鼎	鼎の実家山本医院
	美術文芸雑誌『方寸』の創刊	
二	文学作品に描かれた大屋	27
	『方寸』のなかの大屋	方寸社画会旅行記録
	大屋座での芝居見物	鼎と上田の風物
三	『上田朝日新聞』への連載	33
	はがき通信「尋常茶飯録」	
第四節	上田を訪れた作家たち	35
一	旅の文字	35
	岸田吟香	森鷗外
	ギュスターヴ・グダロー	木下尚江
	相馬黒光	窪田空穂
	田山花袋	
二	上田ゆかりの作家	47
	島崎藤村	大和田健樹
	川井静子	

第二章 大正時代の文学

第一節 出身作家たちの活躍……………53

久米正雄「父の死」 天折の作家金井融 正木不如丘父祖の地上田 清水澄子と『さ、やき』

第二節 短詩型文学の興隆……………64

一 「時報」の文芸欄……………64

『浦里村報』と大旱魃 『別所時報』の詩と散文 『川辺時報』に見る女性の短歌

『西塩田時報』で文芸募集

二 川柳、俳句誌の創刊……………67

『川柳六文銭』の創刊 俳句詩『朗声』の創刊

三 『上田郷友会月報』の文芸作品……………68

飯島花月と花岡百樹 松宇、曲川の作品 小学校教師の短歌 成沢玲川の随筆

四 『川柳鯨鋒』誌で活躍……………71

第三節 山本鼎とその周辺……………72

一 山本鼎の文学作品……………72

神川村大屋を書いた随筆

二 島崎藤村……………74

三 村山槐多……………76

四 北原白秋……………77

五	倉田白羊……………	78
第四節	別所温泉と作家たち……………	80
一	有島武郎癒しの旅……………	80
	有島武郎……………	
二	地獄曼陀羅と葛西善蔵……………	82
	葛西善蔵 葛西の別所滞在の背景……………	
三	別所温泉と歌人たち……………	85
	土田耕平 北原白秋 大町桂月 島木赤彦 齋藤茂吉 タカクラ・テル……………	
第三章	昭和戦前の文学……………	
第一節	プロ派の作家とその時代……………	95
一	新田潤……………	95
	高見順と親交 小説『煙管』で注目される 『映画館のある街』と『片意地な街』 少年時代を回想した随筆……………	
二	上田進……………	99
	ロシア文学を翻訳・紹介 農民小説も発表 小説に描かれた岩下の農民 『信毎』の農村雑記評を担当 川端康成らと監修した本……………	
三	「農村雑記」から……………	103
四	短歌・俳句など……………	105
	塩尻で民謡を募集 『豊里時報』の俳句・短歌 『神川』で短歌を募集 詩にみる神科村……………	

五	『信濃歌集名鑑』の歌人たち	『な、草』の創刊	川柳誌『ぬかご』と六山人	110	
	プロ派ゆかりの文学				
	古沢真喜のふるさと				
第二節	詩歌に詠まれた上田			113	
一	上田ゆかりの詩歌			113	
	折口信夫	草野心平	小林泉	土井晚翠	
二	農民詩人たち				120
	農民詩人の誕生	志水克	土屋和郎	小田英	
第二節	上田を訪れた作家たち				127
一	上田見物				127
	志賀直哉一時間半の上田見物	寺田寅彦と上田祇園祭	川端康成とえびす講の街		
	堀辰雄温泉ぎらいの旅				
二	作家ゆかりの上田				134
	秋田雨雀と岩下での結婚式	石井鶴三毎年の上田行き			
三	信仰の旅				138
	津村信夫安産祈願の旅				

第四章 昭和戦後の文学

第一節 上田を訪れた作家たち

一 塩田平紀行

岡部伊都子古塔紀行

立原正秋

永井路子

室生朝子

松谷みよ子

椎名誠

二 真田氏紀行

司馬遼太郎 池波正太郎

第二節 上田ゆかりの作家

一 二人の詩人

龍野咲人のふるさと

田中清光の上田紀行

二 疎開作家たち

加藤周一と上田の結核療養所

福永武彦の滞在

中野重治と終戦時の塩田

里見淳と諏訪形

諏訪形を訪れた作家たち

舟橋聖一の訪問

佐藤春夫と秋和

第二節 さまざまな文学活動

一 昭和二十年代

別所青年団の歌会

投稿作品への苦言・批判

農村文学の創造

短篇小説を募集

総合文芸誌と詩誌の創刊

花岡百樹の死去と句碑

川柳誌創刊と句碑建立

二 昭和三十年代

療養生活と俳句

峯村国一、山極真平の活躍

『川柳六文銭』を発行

田子六華の句碑

185

179

179

163

157

157

152

143

143

合同歌集などを発行 短詩型文学祭を開催 金子吞風の活躍
三 昭和四十年代以降……………189

上田の歌人たち 曲水詩社の漢詩 『うえだ歌と評論』と文芸誌『顔』 句碑建立や歌集の出版
「社会教育大学」に文学科創設 図書館・公民館での文学学習 上田の詩人たち
『教育うえだ』の文芸欄 白雄二百回忌記念事業 文学賞受賞の二作品

第五章 歴史小説の舞台・上田

第一節 幸村と真田十勇士の物語……………199

立川文庫で爆発的な人気 現代作家の作品から

第二節 昌幸の築城と上田合戦の物語……………202

真田昌幸の影武者 築城の指図をする昌幸 第一次上田合戦 第二次上田合戦
真田太平記館がオープン

執筆分担

調査協力員

資料提供者・協力者

参考文献

あとがき

目次 上田市誌の編さん組織

『上田市誌』全三冊の編成と書名

表紙写真

右上から『川柳六文銭』創刊号（大正八年）

滝沢秋暁が創刊した『田舎小景』（明治二十八年）

志賀直哉『豊年虫』（東京・座右宝刊行会。昭和二十一年）

新田潤『煙管』（東京・文明社。昭和二十一年）

裏表紙写真

尼ヶ渚から望む上田城西櫓やぐら

上田市誌 近現代編 (6)

上田の風土と近代文学

発行 平成十二年三月二十日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三二四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇